

07・お庭で露出調教らぶらぶえっちする

『06・一緒におやすみ』から三週間ほどたったある日。

十二月上旬。時間帯は十三時ごろ。天気は晴れ。

気温は二十二度程度。季節外れなほど温かい。

主人公は、サリアの必死の治療により、すっかり元気を取り戻した。

麻酔の効果は無事に切れ、後は喉の傷さえ完治すれば、元通り話せるようになるだろう。

あんなにやせ細っていた身体も、サリアが与えた食事で、だいぶ健康的になった。

手入れする余裕もないまま弱っていた髪の毛は、サリアが栄養を与えてつやつやにブラッシングしたし、元々白く美しかった肌は、ごく簡単なケアだけで、赤ちゃんのようにすべすべになった。

手足にあった小さな傷痕はサリアが治療時に全部取り除いてやったし、割れてボロボロになっていた爪も二十個、全部丁寧にリペアした。

さらに今日の服装は、サリアが縫った渾身のメイド服だ。

なのでサリアは今、この手で理想の美少女を誕生させた気分である。

化粧はもう少し派手でもいい気がするが、化粧慣れしていない主人公は、顔に何かを塗られたりなんだから気になるらしい。

結果、最低限のメイクしか施さない事にした。元々の顔がいい人間の特権である。

ていうかこいつ、一回ばっちりメイクしてあげようとしたら、速攻で思いっきりこすつて台無しにしゃがった。

あと、コルセットとか、身体を締め付けるものは、嫌がつてつけない。逃げるの。許さん。

……いや、目とか色々かゆかったんだろうし、苦しいのは嫌なんだろうね。気持ち悪からんでもないわ。ごめんね。

そんな主人公は今、サリアと屋敷の庭にいる。

主人公の麻酔が切れて以来、サリアは約束通り、主人公に勉強を教えているのだ。

とにかくサリアは今、非常に機嫌がいい。

美しい花に囲まれた自慢の庭で、己の手で完璧にレストアした最愛の女性の家庭教師になる。

このシチュエーションだけですばらしいのに、ご存知の通り主人公は勉強熱心だ。

サリアが出した薬草学の小テストにも、全問正解してしまったのである。  
目の前にある現実的な問題を、すべて忘れたくなるほど幸せだ。

SE1 ..庭の環境音

【最初から最後まで流す】

【トラック終了まで繰り返し流す】

【0―8秒ほどまでの、鳥の鳴き声があったん途切れるまで流してSE2】  
【その後、音量を小さくしてトラック終了まで流し続ける】

SE2 ..サリアが本を閉じる音

【最初から最後まで流す】

【小さな音量で流す】

●中央 至近距離

「【上機嫌で】

はい。 今日のお勉強はここまで。

【額にキスする】

ちゅ。

【すごく優しく】

よく頑張ったね。全問正解なんてやるじゃん♡

【少し間をあけてから】

喉の傷も、ほとんど消えましたね。

●●左 【※マークのセリフ終わりまでささやく】

【すごく優しく】

もうすぐ話せるようになるからね」※

サリアが優しくささやくと、主人公はサリアを上目遣いで見上げ、ニコツと微笑む。  
大好きなそれを見ると、サリアは、すべてを忘れて恋人ごっこに興じたくなる。

本当は、このところ主人公が夜な夜なベッドを抜け出しては、自分の書斎を調べている事を知っている。

きつと、脱出の方法か……あるいは、自分の事についてでも調査しているのだろう。  
相変わらずこの子は探偵ごっこが大好きだ。勇者なんかより、探偵の方が向いている気がする。

——もし、サリアがこれを止めたいのなら。

主人公に、本当にどこにも行ってほしくないのなら。

また危ない薬でも打って、無理やりこの家に縛り付ければいい。

レベルドレインは実際にしたのだし、いざとなったら取り押さえる事だって容易だろう。でも、サリアはそうする気にはなれなかった。

これまで不遇な目に遭い続けてきた主人公に、これ以上ひどい事をしたくなかったのである。

そもそもレベルドレインだって、本意ではない。

そうしなければ、身体が動くようになった直後の主人公……つまり、身体は動くが性衝動をコントロールできない主人公を抑えきれかわからず、不安だった。なので、しただけだ。

サリアはすでに『無理やり主人公の初めてを奪う』という、これ以上ないほど最低な行為をしている。

なのに、今更一体どの面を下げてそんな事を……。

という話だが、それでもしたくなかった。

主人公が望むのならば、サリアは本当にどんな事でもしたいと思い始めている。たとえばそれが、サリアの意に沿わない事だとしても。

● 中央

「唇に、そっと一回だけキスする」  
ちゅ。

【上機嫌で】

たまにはお庭で勉強するのもいいね。天気もいいし」

SE3 : 主人公がサリアの腕を『ぽんぽん』と叩く音

【途中から流す】

【0―1秒目ほどの、最初の『ぽんぽん』のみ流す】

【小さめの音量で流す】

● 中央

【「振り向く」

うん？」

サリアが気分よく空を見上げていると、主人公がサリアの服の袖を引っ張る。  
振り向くと、主人公が目を閉じて顔を近づけてきた。

主人公はキスが大好きだ。

●中央 至近距離

「唇を合わせるだけの、長めのキスをされる」

ん……♡

【少し間をあけてから。不満そうにしているが嬉しい】

あのさ。ご褒美あげるなんてまだ言っていないんだけど。そんなにサリア先生に甘えたいの？

【唇に、わざと音を立てて軽く一回だけキスする】

ちゅっ♡

麻酔はもう切れたはずなんだけどねえ。

【不満そうにしているが嬉しい】

しょうがないなあ。

☆【※30秒※ キスする。

ゆるやかだがねっとり舌を絡める、慣れてる感じのキス】☆☆☆☆☆

ん……ふ♡ ちゅくっ……ちゅるっ♡ ちゅっ、ちゅ♡ ちゅぱっ……ちゅ♡

れるっ……ちゅっ♡ くちゅっ……ちゅ♡

【少し息が上がっている】

ふふ。

この一ヶ月で、ほんとエロく育ったよね。

全部で何回したか知ってる？ 聞いたら引くよ。やりすぎだもん。

【少し間をあけてから】

ほら。ペロ出さない。いっぱいいじめてやる。

☆【※30秒※ キスする。

たっぷり舌を吸うデープキス】☆☆☆☆☆

んうつ……れるっ♡ ちゅるる……ちゅぶっ♡ んっ、んっ、ちゅっ……♡  
ちゅばっ、ちゅばっ、くちゅっ♡ れるっ……ちゅっ♡

【満足げに】

ふふ。可愛い。とろんってなってる。

【ちよつと不満げに】

あなた、好きでもない女と一日何回もするビッチのくせにさあ。  
すぐそういう顔すんの、ずるいんだけど。

【キスされる。また、唇を合わせるだけの、長めのキス】

ん……♡

すぐそうやって甘えてさ。

自分が可愛いって事、わかっててやってんでしょ。

【少し間を空けてから】

あたしがそういう風にしたんだけど♡



【少し間を空けてから】

どの道こんな性悪女は、徹底的に管理だな。

サリアちゃんとのえっちやなきや満足できない身体にして、一生離れられないようにしなきゃ。

【唇に、わざと音を立てて軽く一回だけキスする】

ちゅ♡」

主人公、椅子に座ったままサリアとたっぷりキスをして、うっとり身をゆだねている。だがここで『何かがおかしい』と気づいたのか、今度はぐいぐいとサリアの服の背中を引っ張る。

『ここは外ですよ』と訴えたいらしい。

だが、サリアはこれを見視する。

主人公は知らないが、ここは引きこもりの魔法使いの主がいる屋敷である。

そんな簡単に外から見えたり、見つかったりする作りにはなっていないのだ。

絶対に見つからないとは言わないが。

●中央 至近距離

「主導権を握りたい」

えー？ お部屋戻らないよ。ここですんの♡

奴隷調教。ビッチなんだから青姦くらい余裕でしょ？

【甘くからかう】

恥ずかしいの？

【一呼吸おいてから】

でもするけど♡

☆【※15秒※ キスする。

サリアが主導権を握っている積極的なキス】☆☆

ちゅ……ちゅっ♡ ちゅる……ちゅ♡ ん……れろっ♡ ちゅっ♡

サリア、そこで主人公の顔をちらりと見る。

本当に嫌がっていたら……と不安になったのだ。

だが、主人公はサリアの服を握ったまま離さないし、さらに、頬を染めて、どこか期待したような顔までしている。

——もしかして、このまましちゃってもいいんだろうか。

もう治療目的じゃないのに、こんなアブノーマルなセックス、してもいいんだろうか。

そう思うと、サリアの喉はごくつと鳴り、興奮してくる。

サリア、主人公の左耳にささやく。

●●左 【※マークまでささやく】

「甘くからかう」

ほら脱いで♡座ったままでいいから。 ※

●中央 至近距離

☆【※15秒※ キスする。

積極的に舌を吸うデープキス】☆☆

ん……♡ れろっ♡ ちゅっ♡ ちゅるる♡ ちゅぶっ♡ ちゅっ♡ ちゅっ♡ ちゅっ♡

しかも、主人公は唇を離すなり、恥ずかしそうに目をそらしたまま、すぐにおとなしく服を脱いで胸を見せる。

ようやく、サリアは気づく。

主人公は今、以前サリアが言った通りにしているのだ。

すべてをサリアのせいにして、この行為を受け入れようとしているのだ。

よく考えてみればわかる。主人公は、もうほとんど自由なのだ。化粧はすぐ嫌がって落とし、コルセットは断固つけない。

『サリアは、自分が本当に嫌がる事はしない』と確信して、反抗するようになっていくらしいのだ。

そんな主人公が、今逃げないという事は、つまり……。

サリアは頭がおかしくなりそうなほど興奮する。

SE4 ..主人公が胸の前のボタンを外して、服を脱ぐ音

【最初から流す】

【0―10秒ほどまで流してフェードアウトする】

●●左 【※マークのセリフ終わりまでささやく】

【甘くからかう】

ふふ。おとなしくおっぱい出すのエロすぎ。

とうとうお外でこんな事する痴女になっちゃったね？ ※

【唇に、わざと音を立てて軽く一回だけキスする】

ちゅっ。

●●左 【※マークのセリフまでささやく】

やらしい。セックス以外何にも考えてないって顔してる。

こんな子がその辺うろろうろしてたら、みんな欲しくなっちゃうよ。

【真剣にささやく】

お願い。あたしだけの女の子でいて下さいね。※

●中央 至近距離

「唇に、わざと音を立てて軽く一回だけキスする」

ちゅっ♡

サリア、唇にキスしてから、左耳にもキスする。

●左 至近距離

「耳に、わざと音を立てて軽く一回だけキスする」

ちゅっ♡

●●左 【※マークまでささやく】

【少し意地悪にささやく】

あくもう乳首硬い。もしかして授業中まで、ヤラれる事考えてた？  
そっかそっか、そんなにしたかったか。※

●左 至近距離

【耳にキスする】

ちゅ♡

●●左 【※マークまでささやく】

大丈夫だよ。

野外露出で勃起する変態乳首は、ご主人様が責任を持って気持ちよくしてあげますからね。  
ふふ。

こうやって指の腹でこすられるの、好きでしょ？

【優しく】

よしよし。気持ちいいね♡

お外で生おっぱい出して、いじってもらうの気持ちいいね♡

【ひときわ優しく】

いいんだよ、たくさんよくなって。全部あたしのせいなんだから。

【一呼吸おいてから】

こっちもしよっか。※

●左 至近距離

☆【※10秒※ 耳舐めする。

音を立ててしっかりと舐める】☆

じゅるっ……ちゅるるっ♡ れろ……くちゅっ♡ ちゅばっ♡

●●左 【※マークまでささやく】

そうだ。あなたが着てるこのメイド服さあ。

あたしが縫ったんですよ。 ※

●左 至近距離

【耳にキスする】

ちゅっ♡

☆【※10秒※ 耳舐めする。

音を立ててしっかりと舐める】☆

じゅるっ、ちゅるるっ……ちゅるるっ♡ ちゅばっ♡ ちゅるるっ♡

●●左 【※マークのセリフ終わりまでささやく】

前にあげた服は、怪我した日にボロボロになっちゃいましたから。

【少し真剣に】

着てくれてありがとう。似合ってますよ。

【いつものトーンに戻る】

これから脱がすんですけどね♥

【ひとときわ甘くささやく】

ふふ。大好き。愛してるよ。

【にやにやと企んでいる感じで】

ふふ……♥」※

サリア、主人公の正面に向き直り、キスする。

そうだ。主人公がその気なら、こちらにも奥の手がある。

このまま『仕方なく流される気の弱い女の子』を演じる気なら、お仕置きしてやる。

●中央 至近距離

☆「【※15秒※】キスする。

しっかり舌を入れて、奥まで。隠し持っていた薬を飲ませる」☆☆

んくっ……ちゅっ♥ ちゅぷっ……れろっ♥ ちゅるっ♥ ちゅるるっ♥

【満足げに】

よし、ちゃんとごつくんしたな♥」



主人公、キスしながら何か飲まされたいらしい事に気づき、困惑した表情で見上げる。

●中央 至近距離

「しれっと言う」

うん。飲ませた。お薬」

主人公の困った顔。サリアはこの顔も大好きだ。

それは、二人が出会ったばかりの頃、つまり、まだちょっと抜けていた頃の主人公がよく見せた顔だ。何が起きているのかよくわからず、状況に取り残されて『???』となっている顔が、とても可愛いのだ。

なので、サリアはついついしばらくそのまま放っておきたくなったが、妖精さんはとにかくケアが手厚いキャラクターだった。

妖精さんがすぐさま丁寧に状況を説明すると、主人公は『頭の上に電球が浮かんで灯るって、まさにこういう感じ』といった表情を浮かべ、ホッとしたように笑った。

それが、とても可愛かった。

だから、サリアはもっと彼女の世界を明るくしたくて、いつも必死になっていた。

だが、最近の主人公はすっかり賢くなったので、なかなかこんな顔は見せなくなった。なのでサリア、なんだか嬉しくなる。

主人公は、自分は常に成長しなくてはならない、バカのままではいけないと思っているようだが、そんな事はない。

サリアは、初期のマヌケな主人公だって大好きだ。どんな主人公だって、彼女が彼女のままであれば、全部大好きなのだ。

SE5 .. 主人公が筆談で質問する音

【最初から流す】

【0―5秒ほどまで流してピタツと止める】

そんな事を考えていると、主人公が、手元の紙とペンを使って『何を飲ませたんですか！』と筆談で尋ねてくる。

もちろん、サリアに答える気はない。

自分はいつも主人公に振り回されている。なので、たまには勝ちたいのだ。

● 中央 至近距離

【満足げに】

ん？ それはお楽しみ♡

【一呼吸おいてから】

じゃあさ？ 次はそこ立ってスカートめくってぱんつ見せて？

その柵とこの影、隠れていいから♡

【一呼吸おいてから】

恥ずかしいの？

【甘々に。命令してる感じを出さずに】

ご主人様の言う事聞きなさい♡ もう気持ちいいのしてあげないよう？」

主人公、絶句すると、また恥ずかしそうにうつむく。

こうやって退路を断つまでが、プレイだ。

主人公はあくまで、いやいや従っているふりがしたいのだ。

SE6 ..主人公が椅子から立ち上がる音

【最初から流す】

【0―1秒ほどまでの、最初の『ギイ、ガタ』のみ流す】

SE7 ..主人公がスカートを持ち上げる音

【最初から流す】

【0―3秒ほどまで流してフェードアウトする】

●中央 至近距離

「甘々にからかう」

あは。素直でよろしい♡ てかこれで聞くんた。ほんとにエロいな奴隷ちゃん♡

【唇に一回だけ優しくキスする】

ちゅ♡

【ぐっしより濡れた下着をさして】

ふふ。ぐしよぐしよじゃん」

SE8 ..サリアの足音

【最初から最後まで流す】

【小さめの音量で流す】

サリア、主人公のそばまで近づいて、左耳にささやく。

●●左 【※マークまでささやく】

「ゆっくりめに、少し意地悪にささやく」

せっかく可愛い穿かせたげてるのに、一日何枚汚してんの？  
もう染みになってるよ？

【一呼吸おいてからささやく】

じゃあ、こっちの手でスカート持ったまま、脱いで？  
でないと触ってあげないよ♡ ※

●中央 至近距離

【唇に一回だけ優しくキスする】

ちゅ♡

見ててあげるから」

SE9 ..主人公が下着をおろす音

【最初から流す】

【0ー7秒ほどまで流してフェードアウトする】

主人公、おとなしく従いつつも、サリアに無茶を言われたので片手で下着をおろさなく

てはなくなってしまうた。とても下ろしづらそうで、もどかしそうである。  
そんな彼女の困っている顔が見られて、サリアはとても嬉しい。  
この程度のS心なら満たされてもいいだろうと思う。

●中央 至近距離

「思った以上に濡れているので興奮する」  
うわ。泡立って白くなって糸引いてる。すご」

サリア、右手の人差し指と中指をくっつけたまま主人公の陰部に触れ、愛液をすくいと、その二本の指を、主人公の目の前でゆっくり開く。

すると、指の間をどろっと白い糸が引いて、主人公はますます恥ずかしそうにする。

SE10 ..サリアが主人公の陰部に触れる音

【最初から流す】

【0―3秒ほどまで流してフェードアウトする】

【小さめの音量で流す】

●中央 至近距離

「愛液でどろどろに濡れた指を見せて」

ほら見て？

「濡れた自分の指を舐める」

れろっ。

「そのまま、わざと音を立てて二本の指をしゃぶる」

んくっ♡

「嬉しい」

ふふ。しょっぱい。

「ゆっくりめに、少し意地悪に」

お外なのにこんなに濡らして。自分からばんつ脱いじゃうとか、マジ変態だね。

「優しく、ゆっくりと指示する」

ほら、今度は両手でスカート持って？ それから柵よりかかるっか。

「すごく優しく」

舐め上げる」

SE11 ..サリアが主人公の股間の前にひざまずく音

【アダルトパート07のSE8と同じ音】

【最初から流す】

【0―1秒ほどまでの二歩分『カツ、カツ』のみ流す】

【小さめの音量で流す】

主人公がまた、素直に従う。

邪魔にならないように、スカートを、両手で抱きしめるように持ち上げる。  
それから、恥ずかしさに耐えかねたように、ぎゅっと目を閉じて、スカートのすそをくわえた。

●中央 下

☆「【※10秒※】舐める。

すでにぐしょぐしょに濡れているものを、丹念に舐めとるイメージ」☆  
んっ……れるっ。ぴちやつ、ちゅるっ……れるっ♡ちゅる……れるっ♡  
全部可愛いよね。  
すぐ濡れるのも、感じやすすぎるのも、羞恥プレイで興奮するのも。



「少し間をあけてから」

こんなのさあ、絶対誰にも教えちゃダメだよ。だって可愛いもん。

☆【※10秒※ 舐める。

両手をお尻に回して、たっぷり舌で舐める」☆

んふっ……んっ、ちゅるっ。んつく……ぴちゃっ。んっ……。

ふふ。お尻すべすべ。赤ちゃんみたい」

すると、そこで主人公がスカートを抱きしめたまま、もぞもぞと腰を動かす。もっと気持ちよくなりたくて、もどかしいらしい。頬を染め、涙目でうつむいている。サリア、それを察して、優しく声をかける。

●中央 下

「すごく優しく」

うん。いいよ。支えてるから。気持ちいいところ当たるように腰押し付けな？

☆【※10秒※ 舐める。

くちゅくちゅ感が強まる。主人公が自分で腰を動かすので」☆

んつく。…くちゅっ、くちゅっ♥ んんっ……くちゅっ♥

【すごく優しく】

腰使いエロすぎ。てか今日濡れ方やばくない？ 音すごいよ？

☆【※30秒※ 舐める。

くちゅくちゅ感がさらに強まる。主人公が自分で腰を動かすので】☆☆☆☆☆  
んっ。ふっ……ちゅるっ……れろっ♡ ん……ちゅるっ♡  
ん、ん、ぴちゃっ、ぴちゃっ♡ ぴちゃっ、くちゅっ♡

【少し苦しい】

はぁ……はぁ……。

【ここから※マークまでゆっくりめに、少し意地悪に】

ん？ もう挿れてほしいの？ そんなに我慢できないの？  
じゃあ、柵つかまって。こっちにお尻突き出して？」※

主人公はこくりとうなずいて、サリアに背中を向ける。

その姿は一見、サリアの意のままに動かされ、従順になるほかない弱い生き物のようだ。  
でも、この場を本当に支配しているのはどっちだろう。

『ご主人様』を名乗るサリアなのか、それとも……。

SE12 .. 主人公が歩く音

【最初から流す】

【0―2秒ほどまでの四歩分だけ流してフェードアウトする】

【小さめの音量で流す】

SE13 .. 主人公が柵につかまる音

【最初から最後まで流す】

【かなり小さめの音量で流す】

● 中央

「ふふ。ほんとにしたよ♥

【ここから※マークのセリフ終わりまでゆっくりめに、少し意地悪に】

ねえ。この格好、めちやくちやエロいのわかる？

後ろからされてる上に、外におっぱい見せてんじゃん。

誰か来たら。犯されてるってすぐバレちゃうよ？

それでも挿れてほしいんだよね。

見られてもいいから、今すぐ気持ちよくなりたいんだもんね♥

いっぱい気持ち良くなるうね♥」※

サリアが手を伸ばし、その指が主人公の中に入って行く。

主人公の細い背中がびくりと揺れて、白い手が、屋敷の柵に、すがるように絡みつく。

SE14 ..サリアが主人公の性器に指を挿入する音1

【最初から流す】

【0―1秒ほどまで流してフェードアウトする】

●中央

「指を挿入して」

ふふ。入った♥

【独り言のように】

ナカ、熱……♥」

サリア、あえて動かさず、主人公の反応を待つ。

後ろを向かれて、顔が見えないのがかえって興奮する。

どんな顔をしているのか、想像するだけでぞくぞくする。

●中央

「ここから※マークまでゆっくりめに、少し意地悪に」  
どうしたの？　なんか違う感じする？

【効果をわかつているので、ゆっくりとニヤニヤ聞く】  
いつもよりおつききて熱い？　ナカでびくびくしてる？

【少し意地悪に】

きやはは。効果てきめくん♡  
そう。さっきの薬。

あなた、あたしの手か口じゃなきゃ嫌がるじゃん？

だから♡　あなたの感覚の方を変えてみたんですよう。

あなたのナカ、ほんと可愛いから。もっと喜ばせてあげたかったんだ♡」

SE15　..サリアが主人公の性器に指を挿入する音2

【アダルトパート07のSE14と同じ音】

【最初から最後まで流す】

【規定の位置まで繰り返して流す】

●中央

「少し驚いて」

うわ。すごい締め付けてくるし溢れてくる。

「甘くからかう」

気持ちいいんじゃない♡

「少し間をあけてから」

てかこれ、単に敏感になるだけの弱い薬なんですけど。

「※マークまでとても優しく」

可愛いね。そんな腰びくびくさせて。

犯し甲斐あります。本当に何でもしてあげたくなる。

ほら。ちゃんと掴まって。奥まで欲しいでしょ？

ふふ。確認しなくても、ちゃんとあたしの指だってば」※

主人公、感じすぎてびくびく痙攣しているくせに、何とかこちらを振り向こうとする。自分の目で見ないと安心できないらしい。

しかし、サリアの言った通りだと理解するなり、安堵したような表情になって、そのまま、つうつと涙を流す。

それからまた背中を向けて、素直に犯されるための格好に戻る。  
その姿に、サリアの心は強く揺さぶられる。

これでは本当に、サリア以外を受け入れる気がないみたいではないか。

● 中央

「一氣にどろっと濡れてきて驚く」

うわ。今一氣にドロってきた。

見て安心したらいっぱい濡れちゃったの？

「すごく嬉しい」

可愛いね。そんなにあたしが良かったの？

「余裕がなくなってくる」

あなたはもうさあ、そういう所が。

そういう所がさあ……」

サリア、たまらなくなつて主人公の方へ近づき、顔をこちらに向けさせる。  
主人公の事が可愛くて、いとおしくて、もうダメだ。

●中央

「ひとときわ優しく」

ね。顔こっち向けて？

●中央 至近距離

「唇に一回だけ優しくキスする」  
ちゅ。

「優しく真剣に」

大好き。愛してる。

「唇に一回、長めのキスをする」

ん……♡」

※ここでSE15がフェードアウトする

サリア、一度指を抜く。

主人公のすぐ隣に立って、今度は前から挿入する事にする。



●中央 至近距離

「少しでも早口になる。優しく指示しているが、もう余裕がない」  
こっち向いて、片足だけちよっと上げて。

【少し間をあけてから優しく】

いく時は顔見ながらがいいんでしょう？

【唇に一回だけ優しくキスする】

ちゅ♡

ちゅーしながらイこ？」

SE16 .. サリアが主人公の性器に指を挿入する音3

【最初から最後まで流す】

【規定の位置まで繰り返して流す】

【小さめの音量で流す】

●中央 至近距離

☆【※30秒※】キスする。

深く舌を絡ませる濃いキス】☆☆☆☆☆

ん……れろっ♡ くちゅっ♡ ちゅぷっ♡ ちゅっ♡ ちゅっ♡ ちゅく……♡  
んっ♡ んうっ……♡ ふっ♡ れろっ、くちゅっ、ちゅっ♡

【優しく】

いきそう？ ふふ。

☆【※15秒※】キスする。

深く舌を絡ませる濃いキス】☆☆

んっ、ん、う♡ んう、くちゅっ、んっ……♡ れろっ、ちゅるっ♡

【ここで主人公が達する】

ん……！】

※ここでSE16がフェードアウトする

SE17 ..主人公がよろめく音

【アダルトパート07のSE12と同じ音】

【0―1秒ほどの、一歩目と二歩目でテンポを変えて、よろけたような音にする】

SE18 ..サリアが主人公を支える音

【アダルトパート07のSE7と同じ音】

【途中から流す】

【5―12秒ほどまで流してフェードアウトする】

サリア、うつとりと涙を流す主人公を見て、とても満足する。

『奴隷調教』なんて言葉を使ってみたが、今までで一番心が近かったような気がする。自然に優しい声が出て、素直になれる。

●中央 至近距離

☆「※10秒※ 呼吸だけをする。

ゆっくり、荒い呼吸を落ち着ける」☆

はあ……はあ……はあ……はあ……はあ……。

【少し間をあけてから優しく】

ふふ。

【少し間をあけてからゆっくりと】

よしよし。可愛かったよ。

【少し間をあけてから優しく】

大好きだよ。あたしの奴隷ちゃん」

このままフェードアウトして終了。